

多世代交流・健康増進拠点施設 【(仮称)湯田温泉パーク】について

令和3年10月7日

山口市総合政策部スマートシティ推進室

1 前回の意見整理等

周辺のまちづくりや地域との連携等に関すること

- ・ 本施設整備を原動力とした周辺のまちづくりについて、検討を深めていく必要がある。
- ・ 小学校を始めとした子どもたちや、周辺住民、関係団体との連携により施設の更なる利用向上が見込めることから、その検討を深める必要がある。

整備内容に関すること

- ・ 市民が日常的に使用できる施設とし、市民の愛着醸成につなげていく必要がある。
- ・ 温泉熱の施設利用について検討してみてはどうか。
- ・ 防音対策といった観点で考えると、温浴施設は東側で配置する方向で検討してはどうか。(C案、E案)
- ・ 防音性や収容人員を多く確保できるといった観点でいえば、C案を中心にゾーニングの検討を深めてはどうか。(C案)

施設の活用等に関すること

- ・ 観光イベントという副次的な施設活用について議論が先行してきたが、次回は配置ゾーニング案を3案から1案に絞って、本施設が目指す姿で重視している市民利用について議論する必要がある。空間の使い方の事例について資料を提示してはどうか。
- ・ 芝生広場の規模や配置等の検討を進めるために、芝生広場の活用について議論を深める必要がある。
- ・ これまでの議論を踏まえ、市民に施設の特徴を分かりやすく伝えられ、また、親しみを持っていただける施設名称を検討する必要がある。

これまでにいただいたこうした御意見を踏まえた本日の議題

1 湯田温泉のまちづくりについて

2 多世代交流・健康増進拠点施設【(仮称)湯田温泉パーク】整備について(市民利用)

2 湯田温泉のまちづくりについて

(1) 湯田温泉の現状

・ 定住人口

昭和50年国勢調査における湯田地域の人口は、約1万5千人で、その後は減少傾向が続き、平成22年国勢調査以降は、増加に転じた。令和2年国勢調査速報値では、湯田地域は市内トップの人口増加率となり、現在、居住地として注目されている地域であり、人口減少時代においても、湯田地域等の定住人口の更なる増加を図る。

・ 交流人口

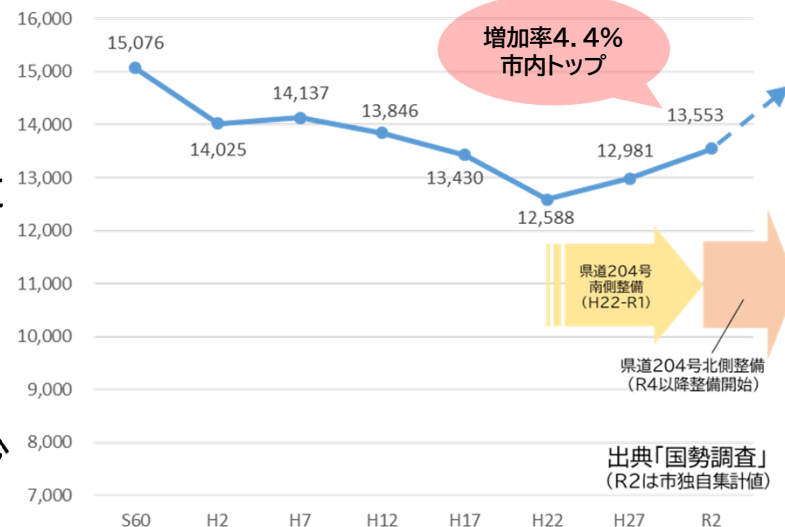
湯田温泉の交流人口は、平成3年の年間約104万人をピークに減少傾向が続き、平成15年には80万人を割り込んだ。こうした中、湯田温泉の関係者の御努力や平成22年度から県道204号南側を中心に社会基盤整備を進めた結果、近年は交流人口が増加傾向に転じた。コロナ禍において影響を受けている宿泊機能や飲食機能の維持・継続支援等を行いながら、湯田温泉の交流人口の更なる増加を図る。

【補足:街なかの現状】

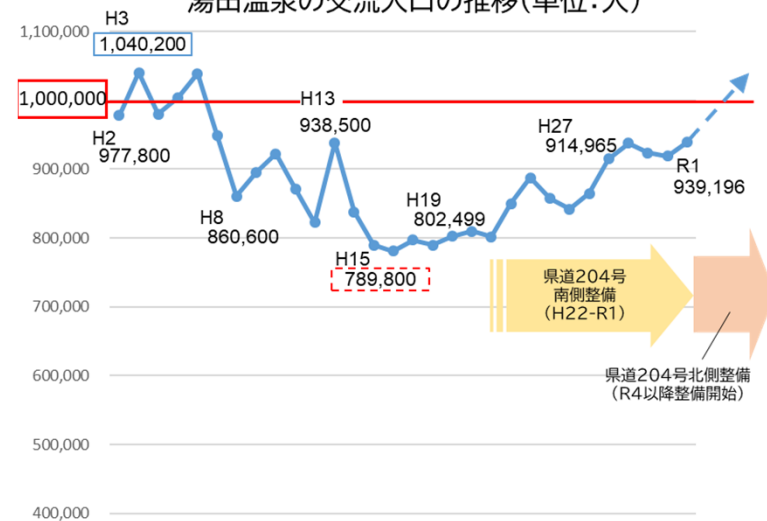
湯田温泉は、宿泊機能が集積し、また、夜間を中心に営業する飲食店が集積していることから、夜間にまちを訪れる人が多い。

また、街なかを安全に回遊できる歩行者空間が整っていないといった現状がある。

湯田地域の定住人口の推移(単位:人)



湯田温泉の交流人口の推移(単位:人)



(2) 本市における湯田温泉のまちづくりの方向性

現在作成中の(仮称)山口市都市核づくりビジョン
において検討中【計画期間:おおむね20年】

湯田温泉の観光地域づくり～住んでよし・訪れてよしの湯田温泉～

本市では「**住んでよし・訪れてよしの湯田温泉**」を湯田温泉の発展の方向性として位置付け、市民に対し、温泉といった地域資源や、地域の歴史、文化に対する誇りを育み、住民の暮らしぶりに根づいた地域資源の磨き上げを行うことで、市民、観光客、双方に魅力を感じていただける、県内随一の温泉地を目指している。

住んでよし・訪れてよしの湯田温泉

住んでよしの湯田温泉
～日本一住みたい温泉市街地～

訪れてよしの湯田温泉
～県内随一の宿泊・保養拠点～

湯田温泉の魅力を生かしたまちづくり
～日本一住みたい温泉市街地～
都市機能が集まる市街地の中心に温泉が
わき出しているという全国でも特徴的な地
域資源を活用し、湯田温泉を始め、本市に
住んで良かった、住んでみたいと思ってい
ただける魅力を高め、豊かな暮らしと交
流、定住促進のまちづくりを進めている。

平成22年度から県道204号南側を始めとした整備を実施
現在、県道204号北側を始めとした整備に着手している

こうしたまちの実現に向け、日中や夜間も市民や観光客でにぎわい、市民が日常的に湯田温泉を訪れ、湯田温泉のある暮らしを楽しみ、市民同士や観光客との様々な交流を楽しむことができる公共空間をまちなかに形成していく必要がある。

(3) 湯田温泉ゾーンのまちづくりの検討状況

現在作成中の(仮称)山口市都市核づくりビジョン
において検討中【計画期間:おおむね20年】

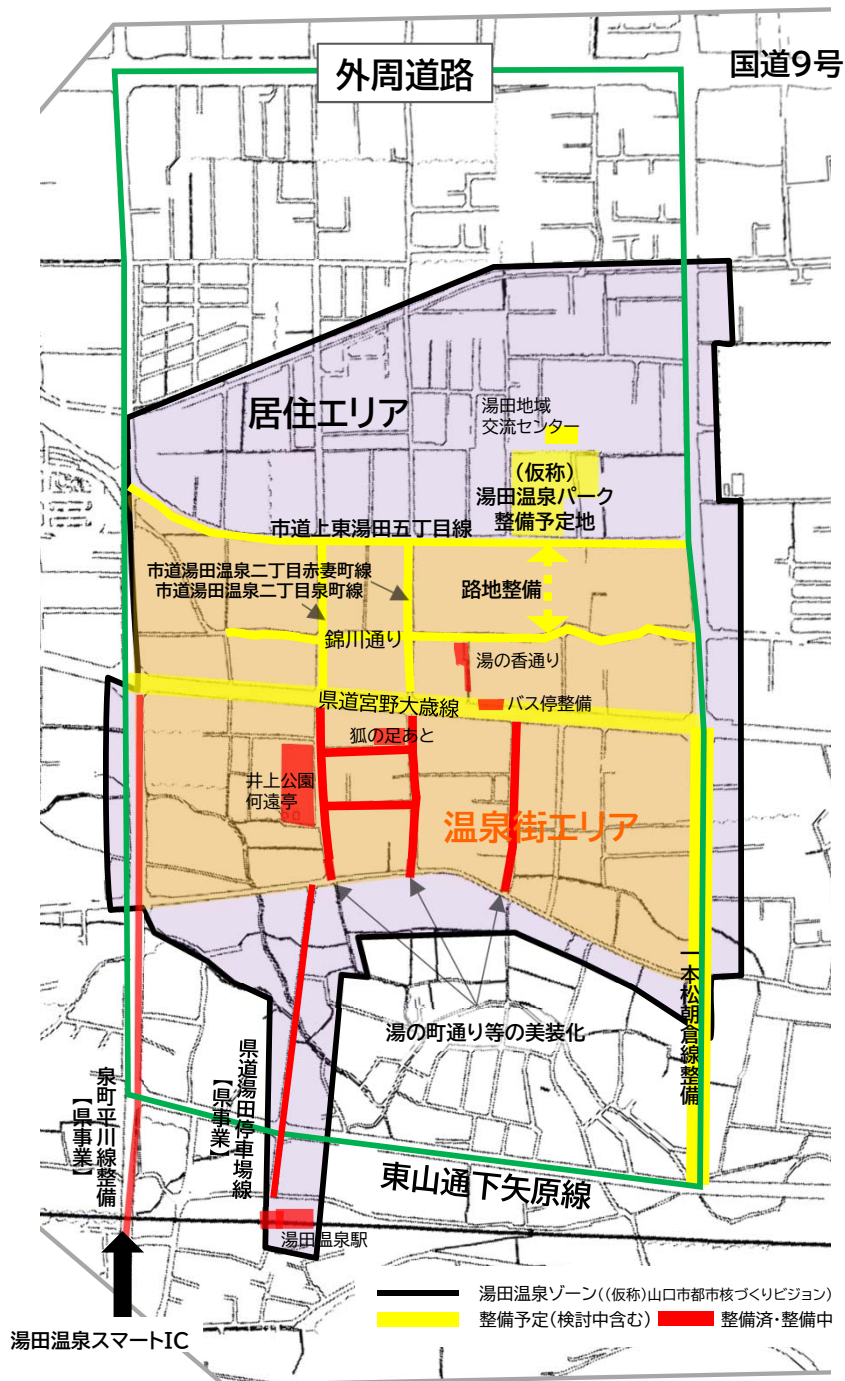
湯田温泉ゾーンにおいては、外周道路整備や湯田温泉スマートICなどの整備を通じた**湯田温泉へのアクセシ性の向上**、拠点施設の整備や各通りの美装化などを通じた**ゾーン内の回遊性の向上及び歩行者の安全確保**を図ることとしている。

【県道204号南側を始めとした整備(H22～R1)等】

- ・ 湯田温泉観光回遊拠点施設「狐の足あと」の整備
- ・ 何遠亭を含む井上公園の整備
- ・ 湯田温泉駅周辺の整備
- ・ バス停の整備
- ・ 湯の香通りの整備
- ・ 湯の町通り、公園通り等の通りの美装化
- ・ 湯田温泉スマートICの整備
- ・ 空き店舗及び空家への新規出店支援
- ・ 湯田温泉白狐まつりや湯田温泉酒まつりを始めとした交流創出イベントの開催支援 など

【県道204号北側を始めとした整備予定箇所(R2～)】

- ・ 多世代交流・健康増進拠点施設【(仮称)湯田温泉パーク】整備
- ・ 市道上東湯田温泉五丁目線
- ・ 錦川通り
- ・ 市道上東湯田温泉五丁目線と錦川通りを結ぶ路地(新設)
- ・ 市道湯田温泉二丁目泉町線、市道湯田温泉二丁目赤妻町線
- ・ 県道204号宮野大歳線(県に要望中)
- ・ 一本松朝倉線の整備



① 市道上東湯田温泉五丁目線の整備イメージ※

- ・ 歩道整備による安全な歩行空間の確保や自転車が走行できる空間を確保することにより、温泉街エリアの外周道路として道路機能を強化する。
- ・ こうした整備と併せて、沿道におけるまちづくりルールの策定や支援等により、民間主導による豊かな公共空間を利用した店舗の立地や、居住機能の導入を促進することで賑わいの創出を図る。

スケッチの視点(青色矢印)



イメージ(検討中)

※(仮称)山口市都市核づくりビジョンで検討を進めている、現時点でのイメージです。路線名称が長いため、本会議では、当該路線を仮でユダキタ通りと呼称します。

② 錦川通りの整備イメージ※

- ・ 一方通行規制等による通過交通の抑制を図り、安全で快適に歩行できる通りとすることで、市民も観光客もそぞろ歩きを楽しめる空間形成を図る。
- ・ 修景整備により、街並みの再生を進めることで、中長期的に、宿泊施設や飲食店と調和した街並みの形成を図れるように、引き続き検討を進める。

スケッチの視点(青色矢印)



イメージ(検討中)

【整備イメージ1】



イメージ(検討中)

【整備イメージ2】

錦川通りは川幅と概ね同幅で地下部分に河川が通っており、床版の老朽化の程度によっては改修が必要です。今後、現実的な整備手法の検討とあわせて、都市型温泉(例：湯けむり)を想起させるような空間形成などを検討していきます。

※(仮称)山口市都市核づくりビジョンで検討を進めている、現時点でのイメージです。

③ 市道上東湯田温泉五丁目線と錦川通りを結ぶ路地(新設)の整備イメージ※

温泉街エリア内に新たな路地を整備することで、外周道路から温泉街エリア内へ安全で快適に歩いてアクセスできる空間形成や、多世代交流・健康増進拠点施設へ直結する動線を設けることで施設へのアクセス性の向上を図る。



※スケッチは、あくまで現時点でのイメージであり、地権者や地元の意見等をお聞きし、整備場所や公民協働による整備手法を含めた検討を行います。

④ 市道湯田温泉二丁目赤妻町線の整備イメージ※

温泉街エリア内の路地の美装化とあわせて、通過交通の抑制を図り、歩行者の回遊性の向上や、安全確保を図る。

スケッチの視点(青色矢印)



※(仮称)山口市都市核づくりビジョンで検討を進めている、現時点でのイメージです。

⑤ 県道204号宮野大歳線の整備促進イメージ※

電線地中化や歩道拡幅を含めた修景整備・バリアフリー化により、温泉街のメインストリートとして、通過交通と調和した市民や観光客が快適に歩いて回遊できる空間整備の促進が可能となるよう、関係者等と協議を行う。



イメージ(検討中)



※(仮称)山口市都市核づくりビジョンで検討を進めている、現時点でのイメージです。

⑥ 湯田温泉における宿泊受入機能の維持・確保に向けた事業承継への支援

温泉街エリアにおいては、民間主導による宿泊・飲食機能等の維持・集積を図ることとしており、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの間に廃業した宿泊施設を承継する事業者を対象とした事業承継支援制度を創設し、本市の宿泊拠点である湯田温泉エリアにおける宿泊機能の維持・確保することとしている。

⑦ 空き店舗及び空家への新規出店支援

湯田温泉観光回遊拠点施設「狐の足あと」周辺にある空き店舗及び空家に新規に開業する小売業や、飲食業又はサービス業等を営む個人または事業者に対し出店支援を行うことで、湯田温泉の回遊性の向上や賑わいの創出を図り、湯田温泉地域の魅力向上と地域経済の活性化を図る。

⑧ 産業交流拠点施設との連携

KDDI維新ホールやMegribaなどを含む産業交流拠点施設が7月にグランドオープンし、KDDI維新ホールで開催されるコンベンション後の各種催しや懇親会などの受け皿として湯田温泉の宿泊施設や飲食店と連携し、新たな人の流れを湯田温泉へ誘因し、さらに市内全体に波及させることとしている。

こうしたことを踏まえ、新山口駅から湯田温泉への移動交通手段の拡充として、直通バスや乗合タクシーなどの導入といった交通体系の構築やMaaSの活用などにより、シームレスな移動の実現に向けた取組を進めている。

⑨ 市内21地域との連携

湯田温泉と市内21地域の地域資源等との連携を図る取組の検討を進めている。

3 多世代交流・健康増進拠点施設【(仮称)湯田温泉パーク】

(1) まちに開かれた公共空間としての本施設の特徴及び活用コンセプト

施設の特徴

「住んでよし・訪れてよしの湯田温泉」の実現に向けては、市民が湯田温泉のある暮らしを楽しみ、日常的に湯田温泉を訪れ、多くの方が集い、交流できる開かれた公共空間がまちなかに必要であり、本施設は、これまでの議論等を踏まえ、次のような特徴をもつ施設として整理しています。

- ・ 市民が日常的に利用できる全天候型の大屋根広場がある施設
- ・ 大屋根広場とともに、温浴施設や文化体験スペースなどの他の機能をもつ施設とし、施設機能の相乗効果により施設全体の利用を高め、さらには、街への新たな人の流れを生み出す複合施設
- ・ 地域イベントや観光イベント、湯田温泉の各団体等によるイベントの開催も可能となる施設

施設活用コンセプト

本施設については、多世代の市民等が自由に利用でき、心身の健康増進を図る場として活用される場とするため、「アソビバ」、「マナビバ」、「タマリバ」の3つの活用コンセプトのもと、施設全体を公園として、いわば、建物まるごとパークとして整理しています。

<多世代の市民等が自由に利用し、心身の健康増進を図る活用コンセプト>

アソビバ ～イキイキ遊ぶ～

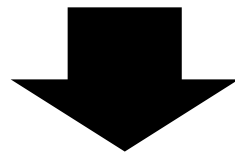
子どもから高齢者まであらゆる世代が、施設全体を使って、自由な発想でそれぞれの世代に応じた“アソビ”を生み出し、“アソビ”のある充実した暮らしを提供する場です。

マナビバ ～ワクワク学ぶ～

あらゆる世代の生涯学習の場としての活用や、市民の好奇心をくすぐる新たな“マナビ”を生み出し、“マナビ”を通じて人生を豊かにする場です。

タマリバ ～ノビノビ過ごす～

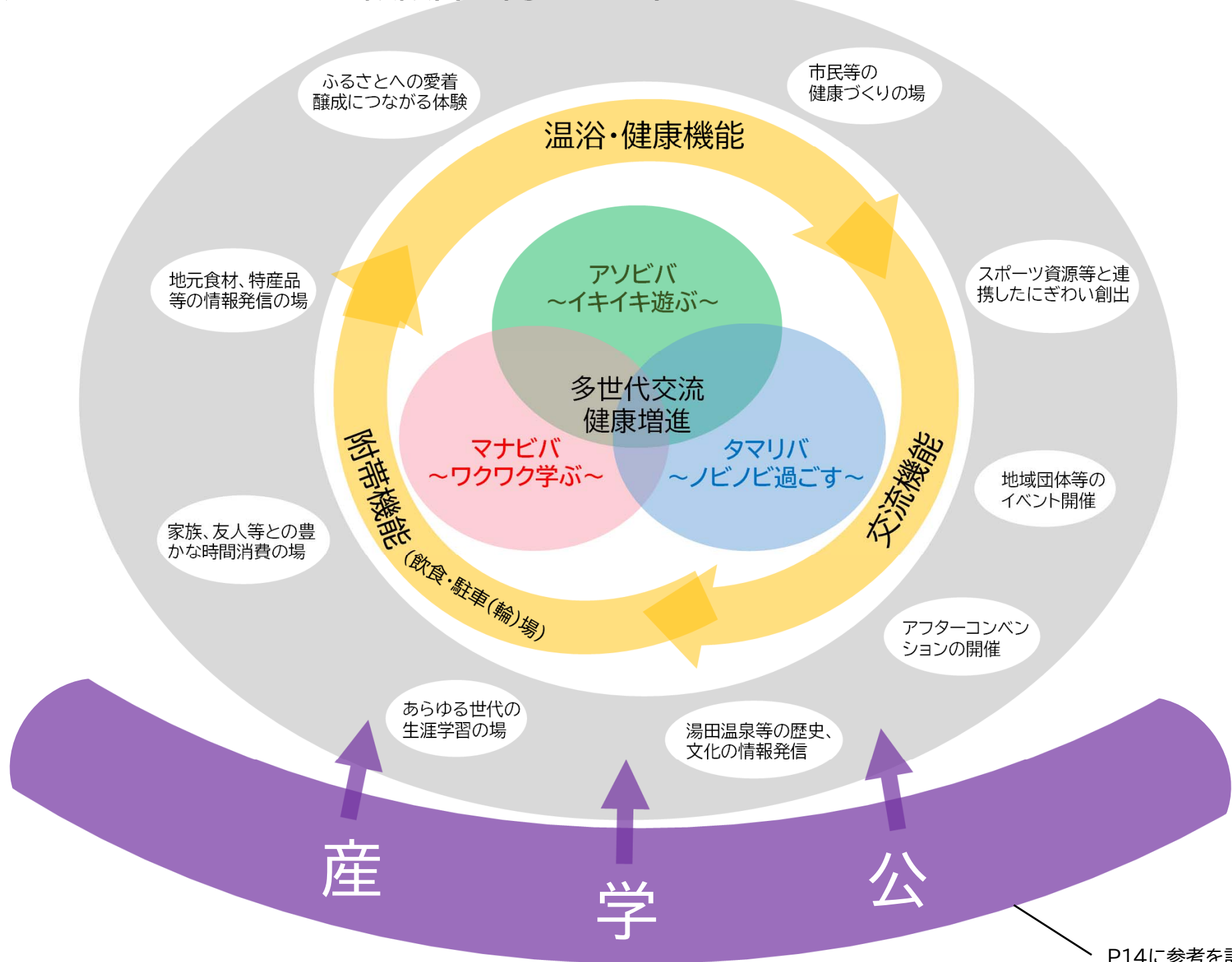
市民のサードプレイスとして、気軽に訪れ、自らの時間を過ごしたり、また、アフターコンベンションなどのイベント会場としての活用や、市民同士や観光客との交流を図るなど、豊かな時間消費を楽しむ場です。



こうした施設の特徴、施設活用コンセプトを踏まえ、また、「多世代交流・健康増進拠点施設」という名称は施設の特徴が分かりづらいといった御意見も踏まえたなかで、

施設名称を**(仮称)湯田温泉パーク**として整理しています。

(2)活用コンセプトに基づく施設設計に向けた基本的な整理



【参考】施設運営に向けた仕掛けづくり

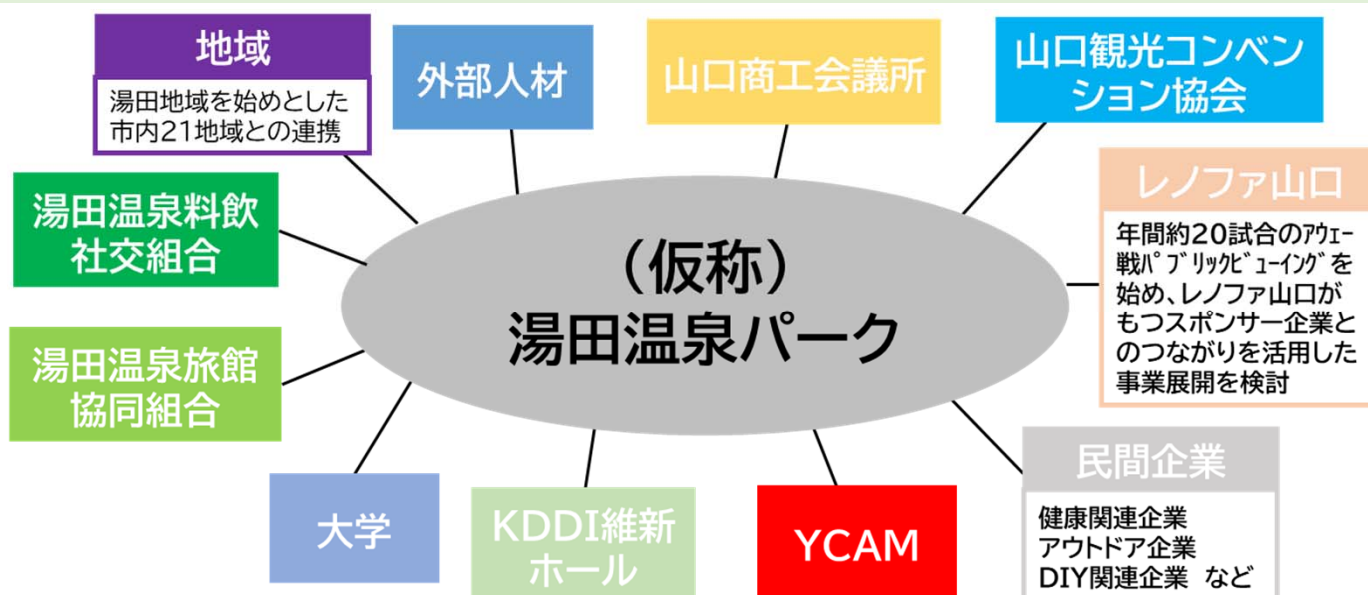
(仮称)湯田温泉パークにおいては、一年中利用できる場を創出することで、施設利用者の拡大を図ります。施設の年間利用者数は、温泉の利用者(現在の寿泉荘の利用者)年間約2万5千人に加え、新たな施設利用者として年間約7万5千人を見込み、施設利用者年間10万人を目指します。また、これまで、市民ワークショップやサウンディング調査、関係団体へのヒアリング等を通じていただいた御意見も踏まえ、施設運営の仕掛けづくりを以下のように整理しています。

【地域団体、民間企業等との連携の仕掛けづくり】

本施設で多様なイベントや講座を開催するために、地域や、レノファ山口をはじめとした民間企業等と連携ができるノウハウを持っているといったことを重視し、指定管理者を選定します。

【日常(市民)利用の仕掛けづくり】

子どもを始め市民が日常的に施設を利用できるよう、市主催事業の開催や、地域おこし協力隊など外部人材の活力を生かした事業展開等を検討します。



あわせて、遊具や噴水の設置、気軽に腰掛けられるスペースや5G、フリーWifiの整備など、市民や観光客が何気なく立ち寄り、自由に過ごすことができる設備の整備も検討します。

(3)施設の配置ゾーニングの検討

★詳細検討対象
★前回詳細検討対象

★前回詳細検討対象

★前回詳細検討対象

		[A] レイヤー案	[B] プロムナード案	[C] 雁行案	[D] 大縁側案	[E] ゲート案	[F] コの字案	[G] 矩形式案
優先度レベル	配置ダイアグラム							
	大屋根広場の防音性	※ 開口部に可動壁等を設置することで防音性を高めることができる。 ○	※ 建物ボリュームで囲まれていないため、防音性は低い。 ×	※ 開口部に可動壁等を設置することで防音性を高めることができる。 ○	※ 建物ボリュームで囲まれていないため、防音性は低い。 ×	※ 開口部に可動壁等を設置することで防音性を高めることができる。 ○	※ 開口部に可動壁等を設置することで防音性を高めることができる。 ○	※ 開口部に可動壁等を設置することで防音性を高めることができる。 ○
レベル1	大屋根広場と多目的スペース・文化体験スペースの一体的利用のしやすさ	※ 大屋根広場に多目的スペースと文化体験スペースが隣接しており、一体利用がしやすい。 ◎	※ 大屋根広場に文化体験スペースが隣接しており、一体利用がしやすい。 ○	※ 大屋根広場に多目的スペースと文化体験スペースが隣接しており、一体利用がしやすい。 ◎	※ 大屋根広場に文化体験スペースが隣接しており、一体利用がしやすい。 ○	※ 大屋根広場に多目的スペースと文化体験スペースが隣接しており、一体利用がしやすい。 ◎	※ 大屋根広場に多目的スペースと文化体験スペースが隣接しており、一体利用がしやすい。 ◎	※ 大屋根広場に多目的スペースと文化体験スペースが隣接しており、一体利用がしやすい。 ◎
	地域交流センターとの連携	※ 地域交流センターに面して緑地があるため、一体的な空間として連携を取りやすい。 ◎	※ 地域交流センターに面して緑地があるため、一体的な空間として連携を取りやすい。 ◎	※ 地域交流センターに面して緑地があるため、一体的な空間として連携を取りやすい。 ◎	※ 地域交流センターに面して芝生広場があるため、一体的な空間として連携を取りやすい。 ◎	※ 地域交流センターに面して緑地があるため、一体的な空間として連携を取りやすい。 ◎	※ 歩行動線は確保されているが、駐車場により分断されており、一体的な空間として連携はとりにくい。 ○	※ 地域交流センターに面して大屋根広場があるため、一体的な空間として連携を取りやすい。 ◎
	芝生広場の活用	※ 飲食施設との連携が取りやすい。 ※ 大屋根広場との一体活用は難しい。 △	※ 飲食施設との連携が取りやすい。 ※ 大屋根広場との一体活用は難しい。 △	※ 飲食施設との連携が取りやすい。 ※ 大屋根広場との一体活用が可能。 ○	※ 飲食施設と距離があるため、連携が取りづらい。 ※ 大屋根広場との一体活用は難しい。 ×	※ 飲食施設との連携が取りやすい。 ※ 大屋根広場との一体活用が可能。 ○	※ 飲食施設との連携が取りやすい。 ※ 大屋根広場との一体活用が可能。 ○	※ 飲食施設との連携が取りやすい。 ※ 大屋根広場との一体活用が可能。 ○
レベル2	温浴・飲食機能の一体管理のしやすさ、維持管理等	※ 飲食施設が分棟になるため、一体管理は難しい。 ※ 温浴施設はまとまっているため管理しやすい。 △	※ 全ての機能が一棟に集約しているため、一体管理はしやすい。 ※ 一棟構成のため、機械室は集約しやすい。 ○	※ 建物ボリュームが二棟に分かれて機能が分散しているため、一体管理は難しい。 ※ 分棟のため、空調室外機など各棟ごとに設ける必要がある。 △	※ 全ての機能が一棟に集約しているため、一体管理はしやすい。 ※ 一棟構成のため、機械室は集約しやすい。 ○	※ 建物ボリュームが二棟に分かれて機能が分散しているため、一体管理は難しい。 ※ 分棟のため、空調室外機など各棟ごとに設ける必要がある。 △	※ 全ての機能が一棟に集約しているため、一体管理はしやすい。 ※ 建物が一棟にまとまっているため、維持管理しやすい。 ○	※ 建物ボリュームが二棟に分かれて機能が分散しているため、一体管理は難しい。 ※ 分棟のため、空調室外機など各棟ごとに設ける必要がある。 △
	通りからの大屋根広場の視認性	※ 前面道路と大屋根広場の間に建物があるため、視認性に欠ける。 ×	※ 前面道路に対して距離があり、周辺建物の背後にあるため、視認性に欠ける。 ×	※ 一部前面道路に開かれており、視認性は比較的高い。 ○	※ 前面道路に面するため、視認性は非常に高い。 ◎	※ 前面道路に開かれており、視認性は高い。 ○	※ 前面道路に開かれており、視認性は高い。 ○	※ 敷地中心からやや奥に寄っているため、前面道路からの視認性はやや劣る。 △
	空間の豊かさ	※ レイヤー状に機能が配置されることで、敷地内に多様な性質の空間をつくりやすい。 ◎	※ プロムナードに面して様々な機能が表出しているが、大屋根広場や単一機能のみが面しているため、やや単純になりやすい。 △	※ 雁行して機能が配置されることで、敷地内に多様な性質の空間をつくりやすい。 ◎	※ 大屋根広場と芝生広場が分画しており、それぞれ面する機能が限定されているため、やや単純になりやすい。 △	※ 芝生広場と大屋根広場が大きく接しているため見通しの良いが、建物形状がやや単純になりやすい。 △	※ 大屋根広場に面して多様な機能が表出しているが、建物形状が単純になりやすい。 △	※ 大屋根広場に面して多様な機能が表出しているが、建物形状が単純になりやすい。 △
	駐車場の台数	※ 附属義務台数を満たしている。 ※ 70 台想定。 ○	※ 附属義務台数を満たしている。 ※ 70 台想定。 ○	※ 附属義務台数を満たしている。 ※ 54 台想定。 ○	※ 附属義務台数を満たしている。 ※ 70 台想定。 ○	※ 附属義務台数を満たしている。 ※ 59 台想定。 ○	※ 附属義務台数を満たしている。 ※ 66 台想定。 ○	※ 附属義務台数を満たしている。 ※ 67 台想定。 ○

第2回専門会議では、7案から3案に絞り込んだC、E、F案をもとに、議論を行いました。
今回は、第2回会議における御意見を踏まえ、3案から1案(C案)に絞り込んだ配置ゾーニング案を作成。
→ 資料2で説明

(4)多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議のスケジュール

第1回【3/30】 配置ゾーニングを参考として7パターン提示

第2回【5/22】 配置ゾーニングを3パターンに絞り込み

第3回【10/7】 配置ゾーニング(案)を提示

第4回【11月予定】 配置ゾーニング(案)に基づく基本設計【概要版】(案)を提示
今後日程調整

第5回【1月予定】 基本設計【概要版】最終案を提示
今後日程調整



2~3月
パブリックコメント

基本設計完成